グリーンツーリズムの現状と将来の姿（仮題）

～ヨーロッパのグリーンツーリズムに触れて～

研究員　高　橋　寿美子

鳥取県における地域の活性化について、自然と農業を活かした観光すなわちグリーンツーリズムが一つの方向を示すのではないのだろうかと考え、研究を進めているところである。

先般、研究の一環として、(財)農村開発企画委員会と食アメニティを考える会（会長：浜美枝さん）の企画による「ヨーロッパで農村女性グループと交流する研修」に参加し、10日間の日程でオーストリアとイギリスを訪問した。ヨーロッパの農村地域を訪問して主に女性グループとの交流をはかるもので、わずかな期間ではあったがヨーロッパの自然と農業に触れ、農村地域の中で生きている女性たちの意欲的な活動にも触れることが出来た。

農業の概要

国土の約６割がアルプスの山岳地帯のオーストリアの農業は、山岳地では牧草・飼料栽培を中心とした酪農・肉用牛飼育が中心となっている一方、東部の平坦地では穀物・果樹・野菜生産が盛んである。農業就業人口の総就業人口に占める割合は、1995年には7.3％と年々減少の傾向にある。平均経営面積は15.4haで、EU平均の17.4haを下回る（表１）。また、経営面積が10ha以下の農家が全体の過半数を占めるなどヨーロッパにおいては小規模であるといえる。兼業農家の比率は約７割に達しており、観光業によって収入を補完しているケースが多い。

一方、イギリスの農業は１戸当りの平均経営面積は70.1haと、EU加盟国の中では１位で、小麦等穀物の生産や、丘陵地帯の牧草地では羊の放牧が行なわれている（表１）。農業技術水準も高く、大規模で効率的な農業が営まれている。しかしそれ故に現在では農産物の過剰問題や農薬などの農業環境問題が関係者を悩ませている。

ヨーロッパでは早くから環境問題に関する取り組みがなされており、循環型経済社会構築への流れを先導している。今回の研修の目的の一つでもある農業、グリーンツーリズムにおいてもこのような取り組みや考え方は重要なポイントとなる。

また畜産と結びつき発展してきたヨーロッパの農業における狂牛病、口蹄疫の発生は、農家にとっては大きな打撃となっており、今回訪問した農家でも深刻な問題となっている。

表１　ＥＵ各国の農業概況

国名	農地面積（千ha）	１戸当り平均経営面積（ha）	第1次産業人口の総就業人口に占める割合（%）
フランス	28,267	38.5	4.6
スペイン	25,230	19.7	9.2
ドイツ	17,182	31.1	3.3
イギリス	16,447	70.1	2.2
イタリア	14,685	5.9	7.5
アイルランド	4,325	28.2	11.1
ポルトガル	3,925	8.7	11.5
ギリシャ	3,578	4.5	20.4
オーストリア	3,425	15.4	7.3
スウェーデン	3,060	34.4	3.0
デンマーク	2,727	39.6	4.9
フィンランド	2,192	14.9	7.8
オランダ	1,999	17.7	3.7
ベルギー	1,354	19.1	2.7
ルクセンブルグ	127	39.9	3.7
ＥＵ（欧州連合）	129,497	17.4	5.3
日本	※1 4,117	※2 1.2	※3 6.0
鳥取県	※1 33	※2 0.8	※3 14.0

数字は農林水産省HP、1995年各国農業概況、欧州委員会資料による。

※1　数字は1995年農業センサス：経営耕地総面積。

※2　数字は1995年農業センサスをもとに、経営耕地面積/総農家数を割出したもの。

※3　数字は1995年国勢調査：産業別15歳以上就業者数第1次産業別割合。

農家民宿

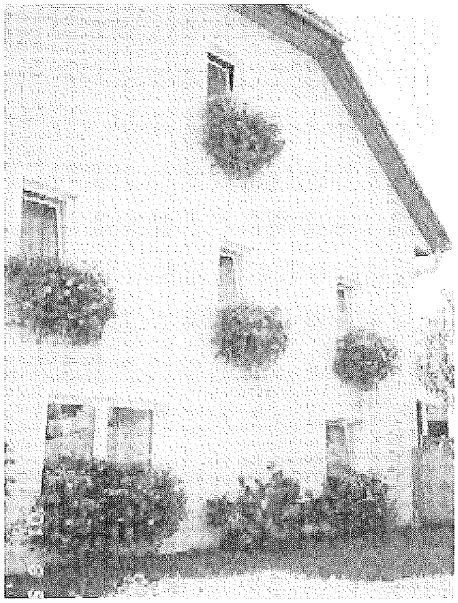
オーストリアの農家では副業の一つとして、「農村休暇（Urlaub am Bauernhof)プログラム」に取り組んでいる。いわゆる農家民宿である。農家が宿泊業の経営に乗り出す際の規制は日本と違って非常に少なく、届出だけで手続きが済んでしまう場合が多い。地域・州・国という３つのレベルで農家の宿泊業団体「オーストリア農村休暇協会」が組織されている。州の農業会議所内に州組織の協会事務局が設置され、宿泊業を展開する農家に対してより専門的なマーケッティング戦略が展開されている。

訪問した農家では、宿泊サービスの提供だけに留まらず、例えばハーブのアロマ効果を利用したマッサージを提供したり、また、有機農業やバイオ農業を売りにして農家民宿とともに、ショップを運営して収穫物の販売が行なわれたりしていた。

私たち一行は５～10人のグループで各農家民宿に分かれて宿泊することになった。私が宿泊したお宅では、２～３の家族、グループの宿泊が可能で、ベッド、シャワー、トイレなどのほかに、簡単なキッチンとリビングルームも設けられ宿泊者がリラックスできる間取りになっていた。朝食の卵、チーズ、ソーセージなど出される食事のほとんどが自家製で、特に何種類も出されていたジャムは、季節ごとの完熟した果物を材料にしていて、どれもとても美味しかった（図１，２）。

図１　農家民宿の食卓

図２　オーストリアの民家



イギリスでも政府機関を中心としてグリーンツーリズムが進められている。イギリスを始めとしたヨーロッパのグリーンツーリズムは、農場や田園地域でゆったりとした休暇を過ごすことを目的としている。受け入れる農家では、農場の運営は男性が、宿泊業に関しては女性が、と比較的はっきりと分業されている。農業だけでは成り立たない家計の副業として、宿泊施設を運営しているという印象が強く残ったが、悲愴感はなく、特に女性が担当する宿泊施設に関しては、運営しながらそこに楽しみを見出してさらにクォリティを高める努力がなされている。

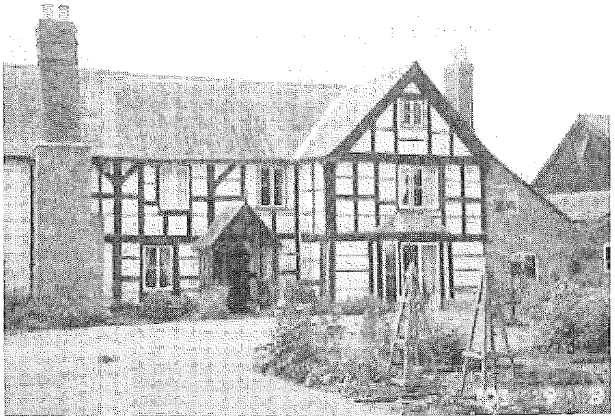
イギリスの農家民宿のグレードは想像していたよりもはるかに高く、驚かされた。古い民家ではあるが、その古さがとても重厚な雰囲気で、より一層そのグレードを高めていたと思う。オーストリア同様、ベッド、シャワー、キッチン、テレビ付きのリビングとゆったりくつろぐことが出来る。民宿での朝食は、ごく普通かそれ以上の食事であったと思っている。（図３）

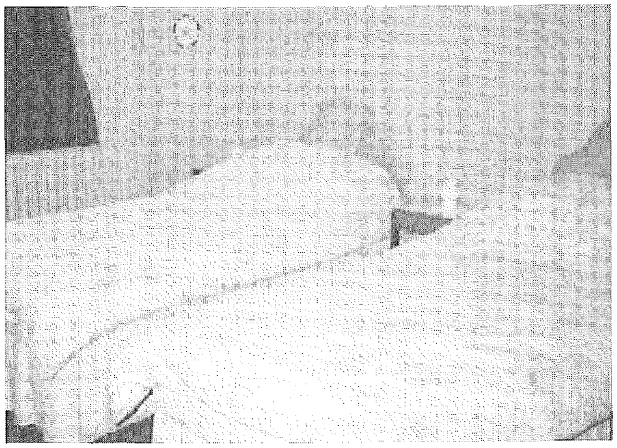
農家民宿を運営している女性に、どのような方法でＰＲしているのか質問してみた。以前はかなりの金額ををかけて各種のメディアに広告を出していたが、ほとんど効果は得ら

れなかったらしい。結局現在の顧客は口コミでひろがった人たちであり、顧客の大多数はリピーターということであった。また、彼女が熱心に取り組んでいることが、料理とガーデニングで、真剣な取り組みが世間に評価され、雑誌等にも掲載される結果となった。これが、かなりのＰＲ効果をもたらしたらしい。

イギリスでは数件の農家レストランで食事する機会があった。狂牛病の影響で牛肉はほとんど出されなかったが、食事はもちろん清潔感溢れた店の雰囲気も、接客してくださった農家の女性たちの印象もとても良く、楽しい時間を過ごすことが出来た。

図３　イギリスの農家民宿と室内の様子





農村の女性たち

オーストリアの「農村休暇プロジェクト(プログラム)」を支援する農業会議所は、村・地域・州の3層からなり、近年では婦人グループの活動に対する支援も活発となっている。

女性の意識や地位向上を高めるための取り組みがなされているが、その中の一部を紹介したいと思う。

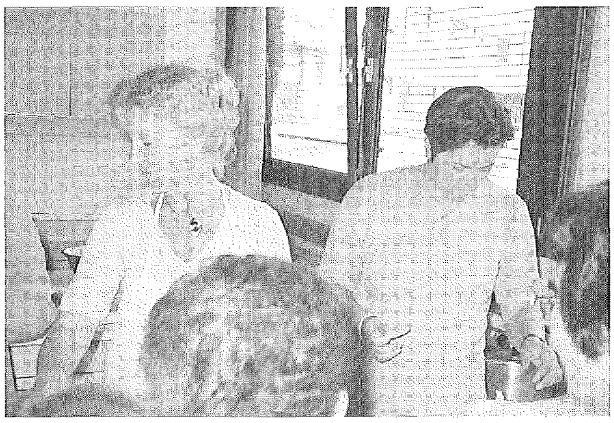
一つは「農民女性の会」という州組織の活動である。会は村ごとに選出された農家の女性の代表で組織される。年に数回の会議を開催し、そこでは女性の立場からの農村、農村女性に関するテーマについての活発なディスカッションが行なわれる。

次に、「セミナー農民女性」の資格の取得である。これは、農業上級学校と農業会議所が主催する講座で、４単位と最終試験と自由選択テーマの講演を行なうことでその資格を得ることが出来る。現在64名の「セミナー農民女性」が各地で講演や講座の講師として活躍している。資格を得た女性の一人は、講師として農業以外の収入、多くの地域で人との交流、いろいろな知識が得られることに喜びを感じ、また、何よりも自信へとつながったと話してくれた。

農業会議所では農村地域の女性だけの枠に留まらず、起業家女性など働く女性たちとのネットワークづくりを進めている。農村や農村地域の女性たちが抱える課題を様々な地域や職種の女性たちと共有することで意識の向上を狙っている。

このようなことから、女性の意識改革や地位向上のためには女性個人の努力もさることながら、行政の支援や枠づくりが重要な役割を果たしていることがわかる。

図4　セミナー農民女性



ニーズ把握と女性の役割

イギリスで、ブリストル大学のバーナード・レイン氏のグリーンツーリズムに関する講義を受けたが、その中で重要なポイントが二つ挙げられた。

一つは、日々変化している時代のニーズや流行を適格に捉えることである。長い歴史を持つヨーロッパでグリーンツーリズムを進めていくうえで、低価格の宿泊サービスだけではなく近年の健康志向、環境保護に関する意識の変化を捉えておく必要性を強調された。今回の訪問で、健康や環境保護に対する真剣な取り組みを目の当たりにして、そのニーズは充分に捉えられていたと感じた。

もう一つは女性の果たす役割である。保守的で男性主導の農村地域のなかで、ニーズや流行を適格に捉えたグリーンツーリズムを進めていくためには、女性の柔軟な思考や対応が大きな役割を果たす。

確かに今回訪問した農家民宿での主役は女性であった。料理を作る、掃除をする、ベッドメイキングなど宿泊業における必要不可欠な仕事のほかに、人と人とのコミュニケーションという何より重要な役割の中で、女性はその力を発揮していた。

今回二つの国の訪問で共通して感じたのは、女性がとても意欲的で活気に溢れ、美しく輝いていたことである。服装はとてもシンプルで、化粧もほとんどしていないのにきれいだなぁと思えたのは、容姿の美しさだけではなく、内面から表れる自信と誇りのようなものであると感じている。この内面からの美しさが、人とのコミュニケーションで最大限に活用され、そして人をひきつける要素となって、是非もう一度美しい景観と豊かな自然の中で、彼女たちの活気や美しさに触れたいと思うリピーターを作り上げるのだと思った。

日本のグリーンツーリズム

日本でも「農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律」の施行（平成７年４月１日）以降、グリーンツーリズムについての試みや検討が進められている。

ただヨーロッパ方式がそのまま日本で使えるかということについては誰しも疑問を持っているところである。規制だらけの制度、休暇制度の違い、生活習慣の違いなど、いくら日本が欧米化してきたとはいえまだまだ問題は多く残る。

ただ、バーナード・レイン氏も述べられていたことでもあるが、真似ることも一方策であり、そこで違うと感じれば軌道修正することも可能で、徐々にその地域に合ったグリーンツーリズムを創り上げていけば良いのだという。

また、柔軟な思考や対応といった女性の本質は世界各国それほど大差ないように思う。農村地域の女性たちがその特性を充分に発揮するための場と、自信と誇りを持てるように学習の機会を提供するなど行政のより一層のサポートが重要となる。

日本、そして鳥取県には農村地域、あるがままの自然と多くの観光資源が残っており、今後もそれらを保存していく動きは活発である。しかしそれ以外の資源として、農村地域に住む人々、特に女性たちという磨けばさらに輝く人的資源がグリーンツーリズムにおいてのキーポイントと考える。

今後は、ヨーロッパを始めとした国内外の事例を比較検討することで、長所、短所を抽出し、さらには日本および鳥取県においての有効な手法を検討していくものである。

地域住民と地域全体が輝くことが出来る鳥取県型のグリーンツーリズムの手法を探っていきたいと考えている。